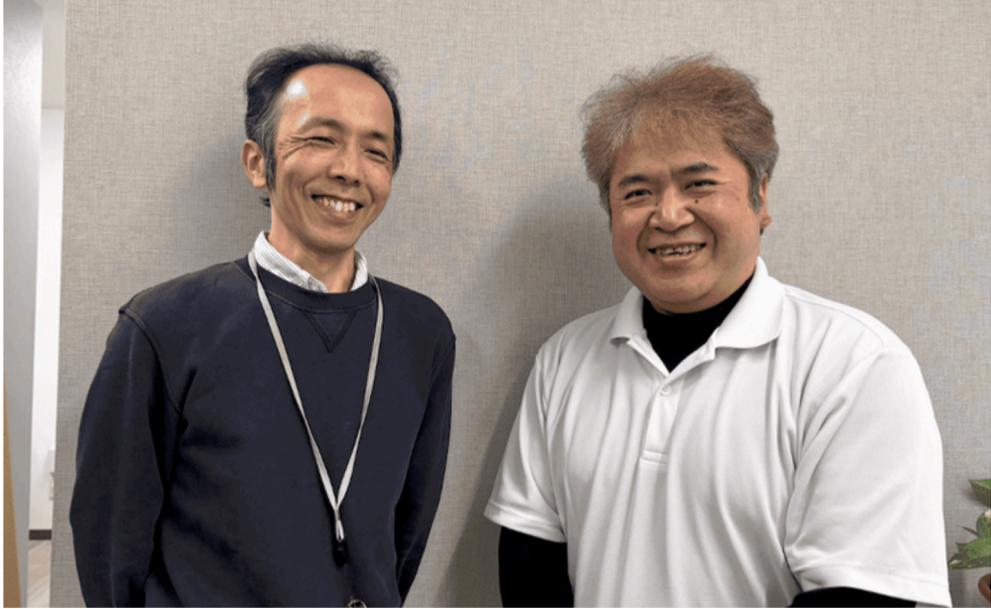


## 株式会社アルファ二十一

### 量産型から個別デザインへ。 市場変化を捉え、技術力を基盤に 生産性と付加価値の両立を目指す貴金属加工事業

貴金属加工の量産から個別デザインへ転換を進める株式会社アルファ二十一。市場変化に対し、助成事業を活用した設備導入とプロセスの見直しで事業再構築を図りました。技術継承を見据えた「人への投資」や賃上げへの考え方について、代表取締役 中関久尚さんと常務取締役 中関昭裕さんに伺いました。



#### 事業内容

#### 鑄造から仕上げまで一括対応できる、高い技術力を強みにした貴金属加工事業

当社は、指輪やペンダント、ピアスなどの貴金属製品の製造・加工・修理を行っています。最大の特徴は、鑄造から仕上げ、検品までの全工程を社内で一貫対応できる点です。また、CADデータからの原型製作だけでなく、お客様のスケッチやラフ案から立体データを起こす柔軟な対応も強みとしてきました。

昔は職人が手作業で型を作り、イメージと違えば一から作り直していましたが、現在はCAD上で修正できるため、かなり効率化されています。量産品から個別オーダーまで幅広く対応しながら、「きちんとした仕事を積み重ねること」を大切に、卸売事業者や販売店、デザイナーなど多様な取引先との信頼関係を築いてきました。

#### 助成事業に取り組んだ理由

#### 量産前提の工程では応えきれなくなった市場ニーズへの対応

以前は量産品の受注が中心でしたが、近年はその比率が徐々に下がり、リフォームや個別デザインの依頼が増えてきました。ジュエリー好きな方ほど、量産品より一点物を求める傾向が強まり、「同じお金を出すなら、自分だけのジュエリーを作りたい」「受け継いだものを、形を変えて使いたい」といった要望が増えています。

一方で、地金相場の変動が大きく、見積時と製作時で金額差が出やすい点は業界全体の課題です。実際に、見積を提示した段階では前向きだったものの、製作時の価格を見て「今回は見送ろう」となるケースも増えていました。

こうした状況の中で、量産型のやり方だけを続けることには限界を感じていました。市場の変化に応え、個別デザインに適した生産体制へ移行する必要があると考え、今回の助成事業に取り組みました。

#### 助成事業を活用した取組

#### 量産前提の工程から個別デザインに適した生産プロセスへ、 工程のボトルネックを解消

今回導入したのは、インクジェット式3Dワックスプリンターです。ジュエリー鑄造用のWAX型を直接造形できる設備で、一点もの製作において必須だったゴム型製作の工程を省略できます。この工程には半日から1日かかることもあり、時間やコストに加え、保管スペースの確保や管理の負担も課題でした。

さらに、旧来の造形機では、造形後にサポート材を手作業で取り除く必要があり、複雑なデザインの場合、サポート除去だけで半日以上かかることもありました。無理に作業を進めると、造形物が折れてしまうリスクもあり、現場の大きなボトルネックとなっていました。

新しい設備では、サポート材がワックス製のため、溶剤に入れておくことで自然に除去することができます。処理中は他の作業を進められるため、時間の使い方そのものを見直すことが可能になりました。

造形物自体は旧来の造形物よりも正直高価になるのですが、人の手間と時間を考えるとトータルではプラスだなと考えています。



インクジェット式 3Dワックスプリンター

#### 賃上げをご検討された理由や取組内容、期待する効果

#### 現場の頑張りをきちんと評価し、技術を次につなげるために



貴金属加工場

賃上げについては、これまでも継続的に取り組んできました。忙しい時期には夜遅くまで作業が続くこともあり、そうした姿を見てみると、きちんと評価しなければならないと感じています。

当社では、特定の作業だけを担当するのではなく、幅広い工程を経験できる体制を取っており、オールマイティに技術を覚えてもらっています。ひとつの製品を多面的に理解することで、技術力の向上だけでなく、仕事への納得感や達成感にもつながっていると感じています。弊社は離職率がとても低いのですが、こうした積み重ねが、技術の継承や組織の安定にも寄与していると考えています。賃上げは目的ではなく、現場の力を次につなげるための手段ではないでしょうか。

#### 助成事業を活用して良かった点

#### 設備導入だけでなく、事業の方向性を見直す機会になった

設備導入の効果はもちろんですが、それ以上に、申請を通じて事業の内容や方向性を改めて整理できた点が印象に残っています。「なぜこの取り組みをするのか」「これから何を強みにしていくのか」を言葉にする過程で、社内でも認識が揃いました。設備投資と同時に、事業を立ち止まって見直す時間を持てたこと自体が、大きな成果でした。

#### 今後の展望

#### 技術と想いを次につなげ、持続できるものづくりへ

今後も、個別デザインジュエリーへの取り組みを軸にしながら、既存事業とのバランスを取りつつ発展させていきたいと考えています。設備は導入しましたが、最終的な仕上がりには人の手が欠かせません。人の手には、機械ではカバーできないなめらかさがあります。当社の理念である「お客様の心に響く物づくり」を大切にしながら、技術と向き合い続けられる環境をどう維持していくかが、これからの課題であり目標です。



代表取締役 中関久尚さんと常務取締役 中関昭裕さん

#### 申請を検討している事業者へのメッセージ

#### 事業を見直す「きっかけ」として活用してほしい

設備を導入するかしないかで、できることの幅は確実に変わります。一方で、申請に踏み出すこと自体にハードルを感じる方も多いと思います。今回、私達にとって助成金申請は初めてで、最初は書類の多さに圧倒されて敬遠していました。そのため、申請準備には1年以上の期間がかかりました。初めての申請は不採択となりましたが、申請書をブラッシュアップし、2回目で採択に至りました。

導入しなければできなかったことがある一方で、申請の過程そのものが、自社を振り返る貴重な時間になりました。苦勞して頭の中にある構想を言葉にし、形にすることは、間違いなく「これからどうしていくのか」を明確にしてくれます。設備投資だけでなく、事業そのものを見つめ直す良いきっかけとして、ぜひ活用してほしいと思います。

## 企業情報

企業名	株式会社アルファ二十一
代表者名	中関 久尚
創業	昭和60年5月
事業内容	貴金属装身具及び、貴金属製品の創作加工卸し ・貴金属及び、非鉄金属の装身具製造卸し ・前各号に付帯関連する一切の事業
申請テーマ	量産品から個別デザインジュエリー製造への深化
所在地	東京都荒川区西尾久7丁目26番10号
URL	<a href="http://alpha-21.co.jp/">http://alpha-21.co.jp/</a>
対象助成金	令和7年度 事業環境変化に対応した経営基盤強化事業(一般コース)